企業調査レポート

ハークスレイホールディングス

7561 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2026 年 11 月 13 日（金）

執筆：客員アナリスト
角田秀夫
FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**

FISCO Ltd.
https://www.fisco.co.jp

2027 年 3 月期中間期：店舗アセット・食品加工事業がけん引し、売上高・各利益とも中間期の過去最高を更新

ハークスレイホールディングス <7561> は、「中食」「店舗アセット & ソリューション」「物流・食品加工」の 3 事業を柱に、“ 食 ” の事業領域で多角的な M&A を実行し成長する企業である。

1. 2027 年 3 月期中間期の業績概要

2027 年 3 月期中間期は、売上高が前年同期比 0.8% 増の 25,734 百万円、営業利益が同 25.0% 増の 1,297 百万円、経常利益が同 34.8% 増の 1,504 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が同 138.5% 増の 1,240 百万円と、売上高、各利益ともに過去最高を更新した。

売上高に関しては、中食事業で積極的な店舗リニューアルに伴う出閉店と消費者の節約志向による売上減収があったものの、「店舗アセット＆ソリューション事業」で、稼働店舗数増加によるストック収入の増加に加え、不動産 1 棟の売却などにより前年同期比で 854 百万円増と順調に推移し、全社の増収をけん引した。また、成長ドライバーと位置付ける「物流・食品加工事業」も食品加工、物流・カミッサリー、菓子製造部門が堅調に推移し、同 396 百万円増と規模を拡大した。

営業利益に関しては、売上総利益の前年同期比 311 百万円増に対し、販管費は 51 百万円増にとどめたことにより大幅増となった。営業利益率でも、前年同期比 0.9 ポイント上昇の 5.0% となり、中間期における過去 5 年間の平均営業利益率 4.0% を上回る水準だった。セグメント別では、「店舗アセット＆ソリューション事業」の不動産売却と稼働店舗数拡大、「物流・食品加工事業」の、食品加工（ホソヤコーポレーション）、カミッサリー、菓子製造（稲葉ピーナツ、谷貝食品）各部門の堅調な推移も利益拡大に貢献した。「中食事業」では、売上高総利益率で前年同期比約 3 ポイント改善したものの、上述した減収の影響をカバーできず、営業損失 126 百万円となった。EBITDA でも、前年同期比 10.3% 増の 2,303 百万円と伸ばし、3 事業のポートフォリオによる安定的なキャッシュフローの創出が数値に表れている。なお、関係会社株式売却益（特別利益、513 百万円）により中間純利益の増益幅が大きくなった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

2. 2027 年 3 月期の業績見通し

2027 年 3 月期は、売上高は前期比 5.9% 増の 55,500 百万円、営業利益が同 8.4% 減の 2,800 百万円、経常利益が同 13.4% 減の 2,600 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 7.8% 増の 1,600 百万円と、売上成長と一定の利益水準の確保を予想する（2026 年 5 月公表値から変更なし）。成長分野としては、物流・食品加工事業のさらなる成長が中心となる。新たに農産部門（M & A により植物工場による葉物野菜（レタス）生産及び販売）が加わり、事業の成長とともに既存事業とのシナジー効果が期待できる。一方で、今期は農産部門の販売チャネル他の体制整備を最優先するため、費用先行を予想する。ホソヤコーポレーションが加わった食品加工部門や稲葉ピーナツを主体とした菓子製造部門は、原材料価格上昇など懸念材料を織り込んでいるものの、強みを活かした各種施策により順調な売上伸長が見込まれる。店舗アセット＆ソリューション事業においては、店舗リース・不動産管理テナントのストック収入積み上げをベースに、稼働店舗に対する人材採用をはじめとしたソリューションで堅調に推移すると見込まれる。中食事業では、人時生産性向上活動の徹底などにより、包装資材、原材料価格などのコスト上昇の影響を吸収し売上高総利益率は前年中間期比 3 ポイント改善している。また既存店の売上前年同月比は 4 ～ 6 月の平均が 92.6%、7 ～ 9 月が 94.7%、10 月単月が 97.8% と改善傾向にある。弊社では、農産部門の立ち上げの先行投資がかかるものの一過性であり、店舗アセット＆ソリューション事業と物流・食品加工事業の収益力が上がっていること、経常利益で中間期に通期予想に対して 57.8% に達していることなどから、高い利益目標ではあるが十分達成できると考える。

成長戦略：グループ会社同士のシナジーによる成果が顕在化

物流・食品加工事業では、グループ会社のシナジーによる成果が顕在化している。シュウマイなどの中華惣菜の製造・販売を行うホソヤコーポレーションでは、ほっかほっか亭とのコラボ商品（贅沢シュウマイ弁当など）が発売され、ヒットした経緯がある。2026 年 3 月に子会社化した J リーフは、人工光型植物工場（成田ファーム）で葉物野菜（レタス）生産及び販売を行っており、ほっかほっか亭のサラダナポリタン弁当のサラダに原材料を提供している。M & A によりグループ化した企業を同社プラットフォームを活用して飛躍させる組織能力がハークスレイホールディングスの強みである。

店舗アセット＆ソリューション事業では、店舗流通ネット株式会社が 2026 年 9 月に埼玉支店（さいたま市大宮区）を開設した。埼玉県をはじめ、千葉県北部及び北関東エリアへのビジネスを拡大する。これまでは、東京本社・横浜支店・名古屋支店・大阪支店の各拠点がベースとなっていた。

株主還元策：「前年を下回らない増配」が基本方針。2027 年 3 月期は 30 円（2 円増、中間期 15 円決定済、期末 15 円予想）を予想

同社は、安定的な配当の継続を基本方針とし、将来に向けた成長投資に利益を配分するとともに、株主への利益還元重視の姿勢をより明確にするため、1 株当たり当期純利益の伸長に合わせて「前年を下回らない増配を目指す」としている。中期経営目標では最終年度の 2028 年 3 月期に年間配当 35.0 円とする目標を掲げており、毎年 2.0 円から 3.0 円前後の増配ペースが期待できる。2027 年 3 月期は、年間配当 30.0 円（同 2.0 円増配、中間期 15 円決定済、期末 15 円予想）、配当性向 34.7% を予想する。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

FISCO

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■
〒 107-0062 東京都港区南青山 5-13-3
株式会社フィスコ
電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）
メールアドレス：support@fisco.co.jp